重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき	歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備がされている	
施策名	歩行者や自転車が安全に移動できる道路整備を推進する	No.42

年度	平成27年度
責任部長	建設部長
主担当課長	道路課長
関係課	公園緑地課、維持課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
徒歩や自転車で道路を安心して移動できると思う人の割合（%）	↗	26.8	27.3	31.8	32.4	35.6	35.4	34.4
		35.4	36.2	35.5	37.6			41.9
歩行者・自転車関連の交通事故件数（件）	↘	1,002	986	965	904	955	859	902
		859	862	843	708			803

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

環境問題に対する意識の高まりと、健康意識の向上が相まって近年、自転車利用者が年々増加しており、通勤手段として自転車を利用することに対し優遇を図り、車から自転車への転換を進めている。一方で、自転車の通行ルールの徹底を図るため、道交法の改正により自転車の歩道走行可能な場合は、自転車歩道通行可の標識等があるとき、児童や幼児（13歳未満）、高齢者（70歳以上）や内閣府で定める身体障害者が運転するとき、車道又は交通の状況からみてやむを得ないとみとめられたときに明確化された。また、登下校時における児童の交通事故防止等の安全対策が求められている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	A 改善傾向	指標「徒歩や自転車で道路を安心して移動できると思う人の割合」は、年々増加傾向にあり、指標「歩行者・自転車関連の事故件数」では実績値に変動があるものの減少傾向にあり、課題は改善されつつあるが、今後も引き続き整備を進め、改善に向けて努力して参りたい。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	
次年度の改善計画	

＊＊＊